

# 笑顔は活きる秘訣

---

合言葉は“褒める”“喜び”の快刺激

愛の家グループホーム甲府朝気  
発表者:河野勇真 PC操作:根津淑美

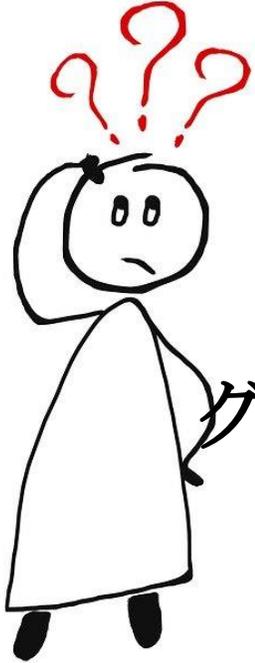
# 愛の家グループホーム甲府朝気

- 令和2年6月1日 オープン
- ホームビジョン～「安心感」と「居心地の良さ」の追求～
- 考え方の基本～ご利用者様にとって“良いか” “悪いか”で考える

GH甲府朝気は、コロナ禍の中  
オープンしました



# オープンして最初の課題・・・



ホームの指針は定まったけど  
何をどうすればいいの・・・？

オープニングメンバーの**半数以上**が、  
グループホーム以外の介護経験者もしくは  
介護未経験のスタッフばかり・・・

# 実際にオープンしてからは 日に日に、ご利用者様は増えてくる

---

- ・日々の業務をこなすので精一杯
- ・利用者様の行動パターンが把握できていない
- ・業務が作業的になってしまう
- ・利用者様と話をしようとしても何を話せばいいのか・・・

結果・・・



- ・BPSDの悪化
- ・利用者様は、ただフロアで座っているだけ

ご利用者様の事を  
知らないと、何も話せない  
何をしていけばいいのか  
明確にならない！！

**カンフォータブル・ケアの導入**

# カンフォーダブル・ケアへの挑戦

- カンフォーダブルとは・・・英語で「心地よいこと、快刺激」
- 褒める 喜びをチカラに変える
- 快刺激は記憶に残る！！

快刺激は**大脳辺縁系の反応**であり、大脳皮質の機能が低下している認知症の方へも効果が期待できる

利用者様自身が心地良いと感じる刺激を提供することで、**BPSDの軽減、緩和をするためのケア技術**

# カンフォーダブル・ケアへの挑戦

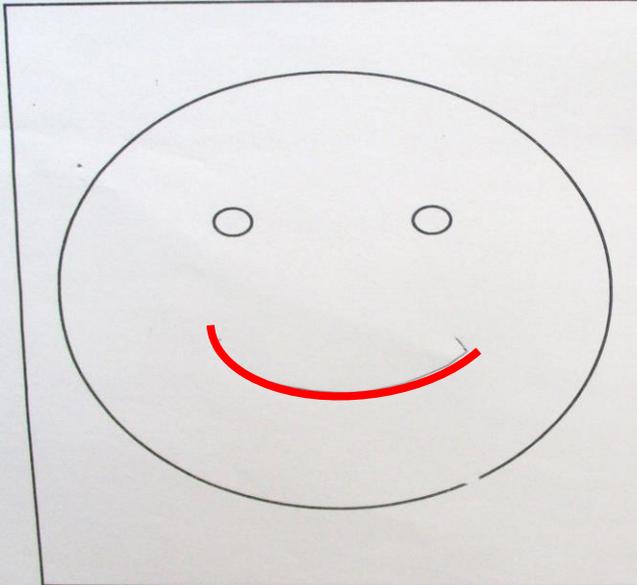
- 大脳の機能の一つである大脳辺縁系の機能とは、食欲や睡眠欲など人間の本能ともいえるものを司っており、快刺激もその中の一つといわれている。
- 快刺激を与えるには、褒める・喜ぶ・笑顔がポイント  
活動(できる事、好きな事、楽しいこと)

褒める(快刺激) → やる気が出る(自己効力感を高める)

# 具体的な取り組み①

「スマイリーシート」  
笑顔になった話題  
褒めたことなど記入  
一日一枚作製  
その人、個人個人の  
情報の精度を上げていく

スマイリーシート【氏名： XXXXXXXXXX】 6月30日

	Q1.どんな事を褒めましたか？ 【言葉づかいが丁寧でいい】
	Q2.どんな話題で笑顔になりましたか？ 【食事の料理やデザートを食べて喜んで笑顔になった】
	Q3.どんな活動に参加しましたか？ 【体操・雑談】
	Q4.あなただけが発見した！（かも） ということ書いてください！

←1日の評価として、笑顔があればニコマーク、そうでなければへんの字  
笑顔ならピンク、怒ったり笑顔がなかったら青で塗ってください！



## 2種類のシートを使うことで・・・

ポイントは  
手法ではなく  
共有と可視化！

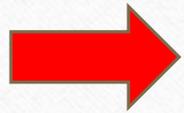
- ご利用者様、一人ひとりの“今”の情報を細かく分析していく事で何を褒められると喜ぶか、何を誇りに感じているかなどその人のアイデンティティを知り、大事にしていくキッカケ作りにする。
- 発言内容や、職員との関わりから返ってきた**反応を可視化**することで、その日、一日をただ過ごすのではなく、経緯を辿りながら、移り変わるご利用者様の情報の共有を目指す。
- 漠然としがちな、ユニットの雰囲気や、変化に**誰(新人さん)であっても**気が付けるような、習慣作りをしていく。

# 取り組み後の利用者様の変化①

---

入居当初は、自分の事をほとんど話さなかったが・・・

「昔お遍路に行ったことがある」「歌が好き」などの入居前の情報には記載のなかった情報を聞くことが出来た。



スタッフとの会話も増え、少しずつ笑顔が増えてきた。

## 取り組み後の利用者様の変化②

フロアにいるが、無表情で無関心だった方が・・・

→ 食事の盛り付けや食器拭きなどスタッフのお手伝いをしていただけようになった。

無気力な生活から、**意欲**が・・・！



# 取り組み後のスタッフの変化

---

- 利用者様に積極的に話すようになり利用者様との関係性が生まれた。
- 利用者様の興味や好きなことに着目するようになった。
- スタッフ間の申し送り内容にも変化が現れ、体調やバイタルのような、数値だけのものではなく、表情の変化や発言内容など、細かな情報も日々、共有できるようになった。

# まとめ

---

- 利用者様だけでなく、スタッフにもプラスの変化が見られた。
- 取り組みが利用者様と会話するきっかけとなり、利用者様の日常生活の変化や新しい情報の発見に繋がった。
- スタッフ間で情報共有をすることで、経験豊富なスタッフから介護未経験スタッフへのアドバイスをするきっかけとなった
- 新人スタッフへも作業的な業務ではなく、ご利用者様がどんな事が好きなのか、どんな事に興味があるのか等、ご利用者様の情報を伝える事がOJTの段階で伝えられることができ、独り立ちしてからも、情報の共有がスムーズにいくようになった。

一番の成果は・・・



利用者様が笑顔で過ごして下さるで時間が増えた。

